

公開 G7 アライアンス・ワークショップ
ー地球規模の資源効率性向上のための国際協力の推進ー
の開催について

＜（公財）地球環境戦略研究機関同時発表＞

平成 28 年 2 月 1 日（月）
 環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部
 企画課循環型社会推進室
 直 通：03-5521-8336
 代 表：03-3581-3351
 企 画 官：松田 和久（内線 6898）
 室長補佐：須賀 義徳（内線 6814）
 担 当：土屋 美樹（内線 6892）

昨年 6 月の G7 エルマウ・サミットでは、首脳宣言の中で資源効率性が取り上げられ、産業界、公的部門、研究機関、消費者等のステークホルダーがベストプラクティスを共有するフォーラムとして、「資源効率性のための G7 アライアンス」が設立されました。G7 アライアンスは、議長国の主導によりワークショップを開催することとされ、昨年は、議長国であるドイツの主導の下、3 回のワークショップ（英国との共催を含む。）が開催されました。

本年我が国が G7 の議長国を務めることから、このたび、国際協力をテーマに G7 アライアンス・ワークショップを開催します。

昨年 6 月の G7 エルマウ・サミットでは、首脳宣言の中で資源効率性が取り上げられ、産業界、公的部門、研究機関、消費者等のステークホルダーがベストプラクティスを共有するフォーラムとして、「資源効率性のための G7 アライアンス」が設立されました。G7 アライアンスは、議長国の主導によりワークショップを開催することとされ、昨年は、議長国であるドイツの主導の下、3 回のワークショップ（英国との共催を含む。）が開催されました。

また、世界レベルで天然資源の消費と廃棄物の排出がかつてないほどの規模に増えており、特に 2050 年には 90 億人を超えると予想される世界人口と新たに工業化している国々における急速な経済成長に伴って更に資源消費が拡大することが予想されることから、G7 各国と G7 以外の国々との協力は重要です。昨年開催されたワークショップ等においても、持続可能な開発目標（SDGs）の実現などにおける新興国や途上国の重要性や G7 アライアンスの成果を G7 以外の国に波及させるべきではないかという指摘がされています。

以上を踏まえ、本年我が国が G7 の議長国を務めることから、このたび、国際協力をテーマに G7 アライアンス・ワークショップを開催します。

1. 開催概要

日 時：平成 28 年 2 月 22 日（月）9:30～18:00 ※9:00 より受付開始
 場 所：パシフィコ横浜アネックスホール F201-202
 （神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1）
<http://www.pacifico.co.jp/index.html>
<http://www.pacifico.co.jp/visitor/accessmap.html>

主 催：環境省
 共 催：（公財）地球環境戦略研究機関（IGES）

2. プログラム

下記のテーマについて、G7 各国及びその他の政府、国際機関等によるプレゼンテーション・パネルディスカッションを予定。

※プログラムは予定であり、変更する可能性もあります。

【世界規模での資源効率性向上の必要性及び国際協力の役割】

- ・ G7 による資源効率性向上のための国際協力の重要性と本ワークショップの目的について（環境省）
- ・ G7 エルマウ・サミットの成果と 2015 年の G7 アライアンス活動について（ドイツ連邦環境省）
- ・ 世界規模での資源効率性の取組の必要性について（UNEP 国際資源パネル共同議長 アシヨク・コスラ）
- ・ 物質消費に関するグローバルトレンドと高まる物質フロー分析の重要性（UNEP 国際資源パネル・東京大学大学院教授 森口祐一）

【災害廃棄物対策に関するセミナー】

- ・ 環境省、国際協力機構（JICA）、仙台市

【資源効率性及び 3R のための国際協力の多様なアプローチ】

- ・ 国際機関（経済協力開発機構（OECD）、国際環境技術センター（UNEP-IETC）、国際連合地域開発センター（UNCRD））
- ・ G7 各国等（日本、ドイツ、米国、英国、イタリア、フランス、カナダ、EU）

【非 G7 国における資源効率性に関する活動と国際協力の可能性】

- ・ 中国、インドネシア、インド、ブラジル、南アフリカ

3. 参加申込

本セミナーへの参加は、参加費無料の事前登録制（150 名程度（予定））です。参加を希望される方は、下記ウェブサイトの申込フォームより、必要事項をご記入の上、2 月 15 日（月）までにお申し込みください。なお、お申し込みが多数となった場合には受付を締め切る可能性がありますので、お早めにお申し込みください。なお、本セミナーの参加申込受付業務は、IGES が担当しております。

■ウェブサイト（申込はこちらから）

<http://www.iges.or.jp/jp/scp/20160222.html>